

アート・プロジェクト KOBE 2019「TRANS-」開催概要

当財団では、2019 年秋、「アーティストとともに作り、ひらく文化創生都市 KOBE」をテーマに、神戸市の西部に位置する、兵庫港、新開地、新長田を中心とする地域で、市街地西部芸術祭の開催を検討しており、これまでの実行委員会において、下記の開催概要が承認され決定しています。

〈開催概要〉

事業名称

(正式名称) 「TRANS-KOBE」(読み方は「トランスコウベ」)

(通称) アート・プロジェクト KOBE 2019 「TRANS-」(読み方は「トランス」)

※広報やロゴなどには、通称の「TRANS-」を使用する予定です。

※事業名称のイメージ…「越(超)える」「変容する」「突き抜ける」

企画内容

今回のアート・プロジェクトでは、グローバルに発展するクリエイティブ・シティとしてのKOBEの新たな可能性を、世界の第一線で活躍する現代アーティストとともに見出し、地域と連携をとりながら創作を実現、見慣れた風景を一変させ、異次元の世界や異空間へ“飛び越えて”いくことを目指します。第一次作家として、海外と国内からそれぞれ1名ずつ作家を招聘し、会場となる3つのエリアの特性にちなみ、「TRANS-」を冠したテーマに基づく作品を発表する予定です。

開催エリア

兵庫港地区、新開地地区、新長田地区

開催期間

2019年9月14日(土曜)～同年11月10日(日曜) 〈58日間〉

※休業日は各展示に準ずる

第一次出品作家

・グレゴール・シュナイダー

・やなぎみわ

※なお、第二次作家についてもアート・プロジェクト全体の構成上、必要に応じて選定する予定です。

第一次出品作家プロフィール

・グレゴール・シュナイダー / Gregor SCHNEIDER

1969年、ドイツ、ライト生まれ。16歳で、自宅の部屋の中に別の部屋を作るなどして改造する作品《家 u r》の制作に着手。2001年のヴェネツィア・ビエンナーレでドイツ館代表作家となり、金獅子賞を受賞。以降、インド、コルカタの寺院前に巨大な道の門を《イツ・オール・ライト》、大きな水道管内を迷路のように進む《デッド・エンド》をはじめ、時間と空間がねじれた非現実な体験を促す大型インスタレーションを手がける。横浜ビエンナーレ、ミュンスター彫刻プロジェクトなど、国際芸術祭の参加も多数。デュッセルドルフ芸術大学教授。ライト在住。

<http://www.gregor-schneider.de>



《ur 10 コーヒールーム》 1993年



《ボンディ・ビーチ、21のビーチ・セル》 2007年

・やなぎみわ／YANAGI Miwa



1967年、神戸市兵庫区生まれ。京都市立芸術大学大学院美術研究科修了。〈エレベーターガール〉や〈マイ・グランドマザーズ〉など、CGや特殊メイクを駆使した写真で、若さと老いといった女性を取り巻く諸問題への洞察を試みる。2009年、ヴェネツィア・ビエンナーレ日本館の代表作家。2011年からは演劇に取り組み、『ゼロ・アワー～東京ローズ最後のテープ』を国内外で上演。昨年の「港都KOBE芸術祭」では野外劇『日輪の翼』のための移動舞台トレーラーを展示した。京都造形芸術大学教授。京都在住。

<http://www.yanagimiwa.net>



《川中島》 2016年

デジタル・プリント 285x160cm

©2018 やなぎみわ



野外劇『日輪の翼』 2017年

(原作：中上健次、企画／演出／美術：やなぎみわ)

©2018 やなぎみわ